



ごあいさつ

けやき会 会長 奥村 和代



北風が身にしみる季節となりました。けやき会会員のみなさま、いかがお過ごしでしょうか。前回の会報が発行されてから1年、新型コロナウイルス関連のニュースを見ない日はなかったように思います。今では、感染予防をしながら日常生活を送ることが“あたりまえ”となりましたが、コロナ前と現在を比べて、みなさんの中で“変わったこと”や“変わらなかったこと”はありますか？

“変わったこと”を考えてみると、おうち時間の増加、買い物の内容や手段、生活様式、働き方など、多くのことが思い浮かびます。それらは、とても速いスピードで起こっているように感じます。そして、価値観も変化してきているように感じます。自分の人生を振り返ってみると、コロナ前も、テクノロジーの進化により、多くのことが“変わる”という体験をしています。例えば、スマートフォンです。ポケットベル、PHS、携帯電話と変化し、携帯電話に関しては2つ折りやスライド式など様々なものが発売され、その後スマートフォンが登場したと記憶しています。それに伴い、コミュニケーションの取り方、音楽や映像の楽しみ方などが変わりました。これまで私たちは、多くの変化を体験し、同時に価値観の変化も体験してきました。しかし、それらはwithコロナ時代の変化よりも緩やかに進んだように思います。

新型コロナウイルスによる環境の変化に伴って、社会全体の様々なことが急速に変わる中、今年5月、「コロナを経験した看護現場のいま～コロナで変わったこと、変わらなかったこと～」をテーマに、オンラインでけやき会講演会を開催しました。オンラインで開催することにより、今まで物理的な距離が壁になり参加できなかった方や、看護師、保健師、学生、教員など様々な立場・年代の方と交流することができました。



withコロナ時代の急速な変化がなければ、このような講演会はまだまだ開催できていなかったかもしれません、講演会のあり方や方法を考え直す良いきっかけとなりました。そして、利害関係なく話すことができる場の必要性を感じました。そのような場は、同窓会だからこそつくることのできることもあると思います。これを機に、同窓会の色々な可能性を考えていきたいと思っています。ぜひ、色々なアイデアやリクエストを、兵庫県立大学同窓会けやき会HPまでお寄せください。お待ちしております。

学術情報館からのお知らせ

学術情報館では、卒業生・修了生の学習・研究活動支援のため、下記のサービスを提供しています。(1) 医中誌Webの検索サービス(窓口で申請)(2) 医中誌Web、PubMed検索時に入手可能と表示されたMedical Online、ProQuestの文献限定で、複写サービス(窓口で申請、受取り)(3) Medical Online、ProQuestの文献限定で複写サービス(電子メールで申請、郵便で返送。1文献あたり上限15枚、一人年間10回を目安)(4) Medical Onlineのアブストラクト(1件110円)が無料で検索可能となるID/PWを提供(5) 学術情報館ホームページからUH Discovery文献検索サービス

お問い合わせは、laic-akashi@lib.laic.u-hyogo.ac.jpまでご連絡ください。なお、これらのサービスは、卒業生・修了生以外の方は利用できません。

けやき会HP

URL : <https://keyaki-kai.com/>

けやき会のご案内や事務局からのお知らせ、会報等をご覧いただけます。

ご自身の登録内容の更新・変更はホームページの「会員情報の修正」からお手続きができますので、ご利用ください。





櫛まつり

辻井 優太

今回の櫛まつりでは、コロナ禍で学園祭のような不特定多数が集まるイベントを行うことは感染のリスクが高いとして、例年のような開催は行いませんでした。その代替りとして、Zoomを用いてオンラインでの、先生方に事前に収集した質問に答えて頂く質問会と上級生との交流会、ビンゴ大会を開催致しました。このオンライン櫛まつりの開催に至るまで、学生会担当の先生方や学生会員など多くの方と相談をしました。感染の拡大がどの程度になるか予測ができない中、何が可能か様々な検討を行いながら、開催の方向性をゼロから模索しました。櫛まつり当日は、教員との質問会では、休日にも関わらず多くの先生方にご参加頂き、沢山のコメントを頂くことができ、学生の今後の参考になる貴重な時間となりました。上級生との相談会では、登校の機会が減り、関わる機会が減った上級生と話す良い機会になり、学生生活における不安や実習のことについて話している様子が見られました。ビンゴ大会についても、事前に急遽授業形態が変わり、ビンゴカードを渡す機会が十分に取れなかったものの、100人近くの学生に参加頂き、チャット欄で多くのコメントを頂くなどオンラインでしかできない盛り上がりとなりました。相談会やビンゴ大会で盛り上がる様子を画面越しではありますが見ることができ、コロナ禍で制限のある環境ではあったものの、オンラインという形であれ、開催できたことに意味があったのだとほっとした気持ちになりました。

心残りとしては例年であれば地域の人々や機関に参加頂き、

大学と地域の交流の場となっていたので、コロナが収まり、普段の日常が戻ってきたなら以前のようにぎやかな櫛まつりが見られたらと思います。最後になりますが、櫛まつり開催に向けて協力して下さった先生方や実行委員の皆さんには感謝しています。ありがとうございました。



けやき会主催 講演会



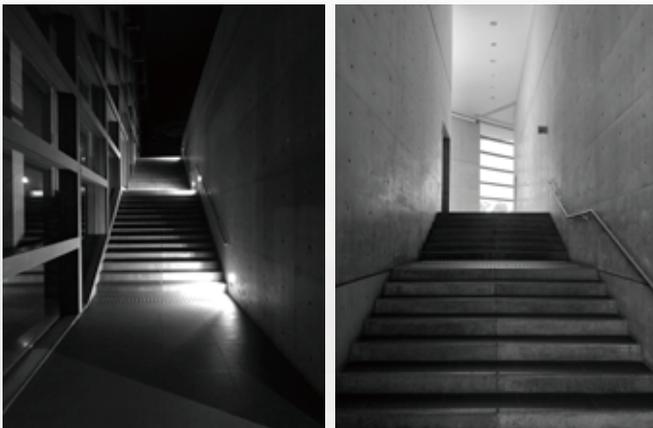
今年度は、同窓生であり、【看護×？（カンカケ）】で活動中の片山賀波子さん（修士11期生）、竹原歩さん（学部2期生、修士3期生）、三谷千代子さん（学部2期生、修士12期生）、山本大祐さん（修士10期生）の皆さんにファシリテーターを務めていただき、オンライン（Zoom）での講演会を開催いたしました。【看護×？（カンカケ）】は、看護についての対話を通して、まなびを楽しむ場で、兵庫県立大学臨床看護研究支援センターの連携研究員が中心となって企画・運営されています。

今回は、「コロナを経験した看護現場のいま」～コロナで変わったこと、変わらなかったこと～というテーマで、新型コロナウイルス感染症で看護にかかわる人それぞれがさまざまな経験をしてきたエピソードを共有し、話し合い、ほかの人の経験を聞く体験をしました。初めてのZoomでの開催でしたが、28名（けやき会役員を除く）の方が参加してくださいました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

臨床での経験をご発表いただいた後、グループに分かれ、それぞれの思いを話し合いました。グループ内は、同窓生、在校生、教員がランダムに配置されており、立場を意識しないように、互いに「さん付け」で呼び合いました。同窓生と教員からは、新型コロナウイルス感染症が感染拡大する中での仕事やプライベートの変化、在校生からは、学校生活の変化について語り、それぞれの思いを共有しました。初対面の相手でしたが、顔が見え、学び舎が同じ仲間であることが安心感を生んだのではないかと思います。開催後のアンケートには、「普段関わることのできない先輩方と関わることで、参加してとてもよかった」、「コロナのせいで変わってしまったことばかりに目を向けがちであったが、看護を行う上で大切にしていることは変わっていないことに気づくことができた」、「けやき会のイベントに参加することは初めてであったが、オンラインでの開催だと非常に参加しやす

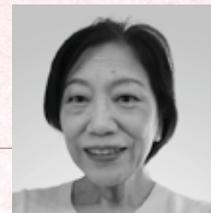
かった」など様々な声が寄せられました。

来年度の講演会は、どのような形式になるか決定していません。しかし、対面だからできること、オンラインだからできることがあると思います。それぞれのメリットを活かしながら、同窓生の皆さまと繋がっていければと思います。こんな企画をして欲しいなどのご希望があれば、ホームページより、ぜひご意見をお聞かせください。よろしくお願いたします。



退職後のときを想う

勝田 仁美



今年3月で定年退職いたしました勝田仁美です。開学の時に兵庫県立看護大学にいましたが、この同窓会の名前にも由来する「けやき」並木も、当時、ほっそりとして若い青葉の櫛が並んでいました。それが今は、太くどっしりとした幹と、重ねた歳を思わせる木肌が、成長された同窓生の皆様の姿と重なり歴史を感じます。わたしは、1期生から出会い、間の9年間を除き、退職するまでの合わせて19年間をここで過ごしました。

最初の4年間は基礎看護学で助手をして、その後は小児看護学の教員として15年間、授業や演習、実習でたくさんの学生の皆様と関わらせていただきました。その間、小児看護学のゼミ生とも卒論などを通じて濃厚な時間を過ごさせていただきました。私のこだわりで、子どもの反応の意味をしっかりと観て理解しようとする姿勢だけは身につけて卒業してもらいたいとの思いで、実習や卒論で出会う子どもたちの発信と一緒に考えさせていただきました。さらに大学院生からは、膨大な現象を、私もそこに臨場している気持ちで子どものことを考えるのが楽しく、充実した思い出です。

開学時、学長でおられた南先生が語られていた「ケアする人（学生）を、ケアをもって育てる」の意味はこの大学に脈々と続いているように感じますし、学生の尊厳を大切にしようとする思いも教員の根底に流れていると思います。小児看護学における子どもの権利や、子どもの力を信じて向き合うということは片田先生時代から皆様の中に継がれていると思いますが、どちらも、相手がどのような立場であっても弱者であっても一人の人として尊重されるという共通性があると思います。この大学を卒業された皆様は、現在の職場で、スタッフであれ、ベテラン看護職であれ、管理者であれ、ケアをもって後輩を育てておられますでしょうか。

私は小児看護の授業や実習を楽しんでいましたが、皆さんにとって小児看護の授業や実習はどうでしたでしょうか。楽しくて子どもが好きになった人もいるかもしれませんが、逆にとてもつらい実習だったという方もおられるのかもしれませんがね。普段子どもと関わるのがほとんどない学生の皆さんに少しでも子どもに関心を持ってもらい、子どもの反応には必ず意味があるということを伝えたくて色々場面事例を挙げていました。3歳児(自身の子どもですが)が「怖い、危ない」と言ってどうしても観覧車に乗ろうとしない理由が分かるまでに、抱っこやポッキーで釣ったり、なぜ！？と苛立ったりしていたのですが、時間をかけてどうしてなのかに耳を傾ける

と「上に行ったら逆さまになる」と言ったのです。そして、1つのゴンドラを目で追って一緒に確認すると、すぐに乗ったのです。子どもは、言葉で明確に発信したりしてくれないので、子どもの反応の意味は、まわりの大人が見ようとしないうり理解に繋がらないのでとても大切です。それは看護も子育ても同じですが、本当は子どもでなくても、あらゆる看護の対象者、あらゆる看護場面で言えることだと思います。看護系大学の教育はどこもそう変わらないと思われているかもしれませんが、県大で学んだということは、大学時代の1つ1つが皆様の中に沁み込んで今を創っていると思います。超多忙な皆様の仕事の現場にありながらも県大生らしさが、まわりに影響を与えているのではないかと思います。

さて、話は変わりますが、現在、私が行っている仕事のひとつに兵庫県公安委員があります。は～っ？！と言われてしまうのですが県民目線で警察行政を管理する役割です。最初は、看護とは何の関係もない真逆のお仕事(ソフトとハード?)のように感じていたのですが、看護との共通性を感じる事が色々見えてきました。地域に密着しながら生活者の安全・安心を守り、問題に対処するだけではなく、予防の視点での活動が常にあります。町を見守るパトロールは3交代24時間体制で行われています。また、災害支援や虐待、性犯罪、被害者・加害者家族支援など、ともに協力し合う場面も多くみられます。看護は科学的根拠をもとに理念を反映させて展開していきますが、警察は事実(証拠)と法律が活動の基準となります。また、意識したことはありませんでしたが私たち看護師も警察官も、対象者に対し強い立場であり、知らず知らずのうちに強制力は働いているという前提だとあらためて気づかされたりもしました。全く異なる仕事から学ぶことは多く、貴重な体験を通して少し自分を成長させられると良いなと思っています。

また、退職後の時間を活用して、地域で子どもの育ちを見守る仕事にチャレンジするのも私の夢でしたが、コロナ感染症によるWeb交流により想像していなかった展開方法も出現して、ぼちぼち検討をはじめられたらと思っています。

これまででは、教育をする立場で長年仕事をしてきましたが、これからは同窓生の皆様のお力を頼ったり、時には一緒にお仕事させていただいたりしながら「ゆるりの一歩」を進められたらと思っています。皆様への感謝とともにおひとりおひとりの同窓生の皆様のご活躍をお祈りしています。

女鹿 瞳 (学部 6期生)

けやき会の皆さま初めまして、勝田先生ご無沙汰しています。先生には、小児ゼミからこども病院勤務時もお世話になり、その後先生のもと大学教育などでも経験を積ませて頂きました。昨年度末の最終講義を拝聴し、ご自身の人生と共に振り返る先生らしい内容に、学んだことを思い出しつつ、温かい気持ちになりました。

先生は子どもの様々な看護現場で、その子の主体性や思いを大切にしたい関わりを実際に示し、一緒に考察する時間もたくさん割いてくださいました。また、子どもや家族、学生、地域の現場スタッフなど、それぞれと向き合う時の物腰柔らかな言動も印象的でした。先生と共有した時間からの学びは、小児の現場を離れ、

地域や企業で関わる対象が変わっても大事にしています。

多忙でもご自身の家族や生活を大切に、どちらも楽しむために考える姿も素敵でした。そんな先生が、新しい場へ身を置いたことも素直にかっこいいと感じました。これからも健康でご活躍される姿を、私たちに見せ続けてほしいと思っています。



大阪大学医学部附属病院 吉川亜矢子

勝田先生、この度はご退官おめでとうございます。先生には15年以上前・学部生のゼミの時からご指導頂いておりました。博士前期課程に進学してからは時間や課題に追われることが多かったのですが、先生の温かいご指導で無事修了することができました。心より感謝しています。先生は子どもの考え、行動、発言から『子どもが体験している世界』に興味深く楽しんでみておられ、先生とお話していると「大変なこともあるけど、やっぱり子どもの世界って面白い！小児看護って楽しい！」と実感することができました。博士前期課程を修了して臨床に戻ってからは、学ばせて頂いたことをもとに子どもの体験している世界を紐解

き、子どもが本当に困っていること、子どもに必要なことを懸命に見極め看護する日々です。他のスタッフたちと共に考えることで小児看護の面白さ、醍醐味が伝われば良いなと思っています。

私にとって先生とお話する時間は、自分の看護を振り返り今後の原動力にする大切な時間です。またお会いできた時には、たくさん楽しいお話をしたいと思っています。勝田先生のこれからのご健康とご多幸を心よりお祈りいたします。

兵庫県立こども病院 碓定永里雅

勝田先生のもとで学ばせて頂いた中で、最も印象に残っていることは、インタビューを通して子どもの体験を聞いた時のことです。そのインタビューを通して子どもの体験を聞き、自分の行ったことの意味について感じることで、単に嬉しいや感動したではないなんとも言えない思いになったことを覚えています。後日報告に行くと、先生はうんうんと頷きながら聞いてくださり、子どもの体験を手取るように感じておられる様子で、先生も子どもの気持ちを感じてくださっている様子でした。その姿を見て、自分が感じたことを一緒に感じてくださったことが嬉しく、また先生はいつも子ども中心で考えておられ、子どもの立場になって感じて考えておられるのだと強く感じました。

私は修士論文作成にあたり、本当に最後まで時間がかかってしまい、提出に間に合わないのではないかと、書き上げることはできないのではないかと思うこともありましたが、先生はいつも否定するような言葉は使わず、書き上げることができるように関わってくださいました。このような経験を通して、看護や教育・ケアを行う上で大切な姿勢を先生から学ばせて頂いたと感じています。勝田先生に学んだことを胸に、子どものことを考え続けることができる人となれるように、日々子どもたちや子どもと関わる人たちにあたたく関わっていきたいと思います。

勝田先生、ありがとうございました。

お知らせ

母性看護領域からのお知らせ

母性看護学領域同窓会

毎年、母性看護学と助産師養成課程で実践研究をした卒業生、修了生、在校生、教員を含めた母性看護学領域同窓会を開催しています。本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、安全に再会できるよう、昨年度に引き続きオンライン（Zoom）にて10月10日に開催しました。会では、大学や母性看護学領域の最近の動向や、参加者の近況報告など行い、楽しいひと時を過ごすことができました。キャンパスでの開催では参加が難しかった遠距離地域にお住まいの同窓生にも参加して頂くことができました。来年も同窓会を開催する予定にしています。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

母性看護事例検討会

母性看護学領域では、母性看護の臨床で直面する事例に焦点を当て、その事例に関する問題や課題に対する具体的な解決を考えること、参加者自身の気づきや理解を深めることを目的に事例検討会を行っています。例年は対面で実施していましたが、今年度はCOVID-19感染症の影響を考慮し、オンライン（Zoom）で実施をする予定です。卒業生・修了生の皆様はどなたでも参加可能です。事例を提供したい方や、参加したい方は、ぜひ下記までご連絡下さい。

2021年度第1回開催日：11月11日（終了しました）

時間：18:00～（オンライン）

（2回目以降の開催日程は調整中／母性看護HPIにてお知らせします）

連絡先 母性看護事例検討会事務局（沼田/福本）

【電話】078-925-9441

【メール】fukumi_numata@cnas.u-hyogo.ac.jp

精神看護領域からのお知らせ

精神看護勉強会

精神看護勉強会は、精神看護の実践家の方々とともに、実践の奥深さを学びあう事例検討会です。

2021年度開催予定（第110回は終了しました）

第111回勉強会 2022年2月19日（土） 13:30～16:00

対象 看護師（精神医療、精神看護に携わる他の医療従事者も含む）

方法 オンライン（Zoom）

精神看護CNSの集い

精神看護CNSの集いは、精神看護専門看護師の事例検討会です。グループ・スーパービジョンの有意義な機会となっています。

2021年度開催予定（第32回、第33回は終了しました）

第34回勉強会 2022年2月19日（土） 10:00～12:00

対象 精神看護専門看護師教育課程を修了された方

方法 オンライン（Zoom）

お申込み方法 メールにてお名前・ご所属・連絡先を明記のうえ、お申し込みください。
なお、勉強会中に知り得た個人情報の守秘義務が生じますことを、ご承諾ください。

お申込み Email：pmhn.cnas@gmail.com
担当：兵庫県立大学 看護学部 武内（精神看護勉強会）、菊池（精神看護CNSの集い）

お問い合わせ先 〒673-8588 兵庫県明石市北王子町13番71号
Web：http://www.pmhn-cnas.jp
TEL / FAX：078-925-9431

会報発行協力金協賛者一覧 (2021年9月30日現在)

令和3年

名誉会員

鵜飼 和 浩
片田 範 子
山本 あい子

特別会員

鵜山 治
勝田 仁美
松田 裕子
吉本 祥生

平10

服部(伊藤)舞依子
得平(新川)佐織

平11
大森(田中)美和

平12
井上 史子
住岡(西村)まどか

平15
齋藤(徳富)英子

平16
野長瀬(谷口)真由美
青木(中地)陽子

平17
安 藝 綾 乃

大谷(山田)智恵

平18
宮 城 十 子

平19
山村(福本)愛

平11博前
岩 切 真砂子
三輪(大崎)富士代

平12博前
藤本(清水)美生

中 山 貴美子
成 田 康 子

平14博前
片岡 優 実
八巻(篠崎)和子
松 枝 美智子

平15博前
奥 野 信 行
菅 原 よしえ

平16博前
大 西 洋 子
森山(多田)祐美
松 尾 和 枝

平17博前
宇 野 さつき

蒲 池 あずさ
平18博前
藤 原 由 子

平20博前
北山(大塚)奈央子

平27博前
吉 田 かおり

平14博後
渡 辺 かづみ

平15博後
寒河江(野澤)美江子

平17博後
呉 小 玉
近藤(佐藤)麻理

平21博後
工 藤 美 子

平23博後
坂 本 真理子

皆様ご協力ありがとうございます。会報の一部に使わせていただきます。

けやき会からのご案内



けやき会 役員 第20期：2021年6月～2022年5月

| | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|--|
| 会 長 | 奥村 和代 | | | | |
| 副会長 | 竹原 歩 | 西池絵衣子 | | | |
| 会 計 | 濱上亜希子 | 高橋美沙子 | | | |
| 書記・庶務 | 武内 玲 | 粟村 健司 | 山岡 千鶴 | 田中 愛実 | |

役員一同頑張ってまいりますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。



『街中で、マスクもせず、お酒を飲みながら騒いでいる人を見るとイライラする。でも、人間関係が希薄になったと言われる現代においても、やはり人は【人との繋がり】を求めている、それはオンライン飲み会では埋められないんだと思うと、ちょっとホッとした。』

同窓生と新型コロナウィルス感染症について話をしていた時に印象的だったコメントです。感染症の勉強をしていた学部・大学院時代は、自分が生きている間に、こんなことが起こるとは思っていませんでしたし、多くの変化を余儀なくされました。ただ、その中でも希望を見い出せる人でありたいな、と思います。

兵庫県立大学同窓会 けやき会 2020年度決算書・2021年度予算案

【決算書】収入の部 (2020.4.1 ~ 2021.3.31) 2021年 3月31日

| 費目 | 2020年度決算額 | 備考 |
|-----------------------|-------------------|----------------|
| 会費 2020年度 学部入 | ¥1,020,000 | 102名×10,000 |
| 2020年度 修士入 | ¥80,000 | 8名×10,000 |
| 2020年度 博士入 | ¥0 | 0名 |
| 2017年度 学部入学生 | ¥10,000 | 1名×10,000 |
| 1994年度 学部入学生 | ¥10,000 | 1名×10,000 |
| 雑収入 | ¥40 | 利子(17+17+4+2円) |
| 令和2年度臨床看護研究支援センターより返金 | ¥500 | |
| 前年度繰越金 | ¥5,151,444 | |
| 収入合計 | ¥6,271,984 | |

【決算書】支出の部 (2020.4.1 ~ 2021.3.31)

| 費目 | 2020年度決算額 | 備考 |
|-------------------|-----------------|----|
| I ホームページ | | |
| 年間管理費 | ¥88,000 | |
| ホームページリニューアル費用 | ¥165,000 | |
| II 樺まつり 総会 | | |
| 案内印刷・郵便利用料 | ¥172,089 | |
| III 会報 | | |
| 会報印刷発送 | ¥200,000 | |
| IV 事務 | | |
| PC並びに周辺機器 | ¥25,300 | |
| Zoom契約料 | ¥22,110 | |
| V 寄付金 | ¥300,000 | |
| VI 役員交通費 | ¥0 | |
| VII その他 | | |
| 退官教授への花束 | ¥14,730 | |
| 振込手数料 | ¥990 | |
| 支出合計 | ¥988,219 | |

| | | |
|------------|--------|------------|
| 2020年度決算残高 | 収入総計 | ¥6,271,984 |
| | 支出総計 | ¥988,219 |
| | 差引残高総計 | ¥5,283,765 |

2020年度決算報告について監査を行い、以上相違ありません。

監査 清原花 印
町村和子 印



【予算案】収入の部 (2021.4.1 ~ 2022.3.31) 2021年 3月31日

| 費目 | 2021年度予算案 | 人数 | 会費 |
|----------------|-------------------|-----|--------|
| 会費 2021年度 学部入学 | ¥1,050,000 | 105 | 10,000 |
| 修士入学 | ¥60,000 | 6 | 10,000 |
| 博士入学 | ¥10,000 | 1 | 10,000 |
| 前年度繰越金 | ¥5,283,765 | | |
| 収入総計 | ¥6,403,765 | | |

【予算案】支出の部 (2021.4.1 ~ 2022.3.31)

| 費目 | 2021年度予算案 | 備考 |
|-------------------|-------------------|-----------------------|
| I ホームページ | | |
| 年間管理費 | ¥88,000 | |
| Web総会システム構築費 | ¥60,000 | |
| II 樺まつり 総会 | | |
| セミナー講師代金 | ¥50,000 | |
| 消耗品 | ¥10,000 | |
| 案内印刷・郵便利用料 | ¥250,000 | |
| III 会報 | | |
| 会報印刷発送 | ¥200,000 | |
| IV 事務 | | |
| PC並びに周辺機器 | ¥30,000 | オフィス・ウイルスソフトサブスクリプション |
| 遠隔会議システム | ¥30,000 | Zoom契約料 |
| V 寄付金 | ¥300,000 | けやき会会員・準会員に対する還元事業に限る |
| VI 役員交通費 | ¥50,000 | |
| VII 予備費 | ¥100,000 | |
| 支出総計 | ¥1,168,000 | |
| 収支差額 | ¥5,235,765 | |

兵庫県立大学同窓会 けやき会 CNAS基金 2020年度決算書

【決算書】収入の部 (2020.4.1 ~ 2021.3.31) 2021年 3月31日

| 費目 | 2020年度決算額 | 備考 |
|-------------------|-------------------|----|
| I 寄付 | ¥0 | |
| II 利息 | ¥14 | |
| III 前年度繰越金 | ¥1,668,390 | |
| 収入合計 | ¥1,668,404 | |

【決算書】支出の部 (2020.4.1 ~ 2021.3.31)

| 費目 | 2020年度決算額 | 備考 |
|-----------------|-----------|----|
| I 母校への寄贈 | ¥0 | |
| II 振込手数料 | ¥0 | |
| 支出合計 | ¥0 | |

| | | |
|------------|--------|------------|
| 2020年度決算残高 | 収入総計 | ¥1,668,404 |
| | 支出総計 | ¥0 |
| | 差引残高総計 | ¥1,668,404 |

2020年度決算報告について監査を行い、以上相違ありません。

監査 清原花 印
町村和子 印